

中信教育事務所では、先生方の目指す授業づくり具現のための学校訪問支援となるよう、カリキュラム・マネジメントの3つの側面（教科等横断的な視点、教育課程の評価・改善、人的又は物的な体制の確保）を踏まえて支援をします。



Q1 単元訪問では、各校のカリキュラム・マネジメントに応じて、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」を支援するということですが、詳しく教えてください。

単元訪問 訪問者 【特定の教科・領域等の指導主事】
支援対象【教育課程、全校研究、研究グループ、教科会等】

A1 各校のPDCAサイクルの実情に合わせて、「単元構想→授業参観→振り返り」等、複数回の訪問を要請することができます。授業改善の成果や課題を他教科や他学年と共有すると、多くの先生方に広がります。

単元訪問の支援場面(基本)



1時間の授業は何のために行うかを、授業者や研究グループと共有する場面（願いの共有）共有した願いを具現化するための具体的な支援を考える場面（単元構想）

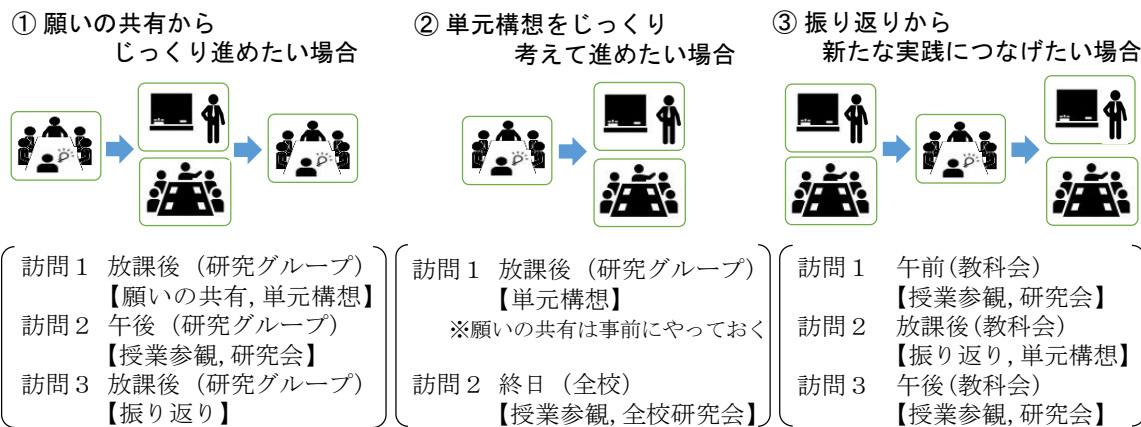


授業者が実践する場面（授業参観）



実践の省察から「学校が目指す子ども像」をもとに支援のよさを共有し、訪問後に支援のよさをどのように学校内に位置付けていくかを考える場面（振り返り）

基本をアレンジした支援場面(例)



※単元後の振り返りを自校で行ったり、複数人、複数回の授業参観・研究会を計画したりするなど、各校で訪問回数や内容についてはアレンジできます。

※午前、午後、終日等の時間については、各校の日課等に合わせご検討ください。



単元訪問では、特定の教科・領域等の指導主事が、先生のこれまでの実践にあるよさを共有しつつ、子どもの学びの笑顔に向かってもう一步進むための支援を共に考えるよ。
教育課程研究協議会は、「単元訪問」で要請してね。
指定研究や同好会などの研究会当日1回の訪問については、令和2年度と同様「その他の訪問」で要請することができるよ。



Q2 ゾーン訪問では、ゾーン担当主事等が「学校のPDCAサイクルに寄り添った支援」を行うということですが、もう少し詳しく教えてください。

ゾーン訪問 訪問者 【ゾーン担当指導主事（都合がつかない場合は、訪問可能な指導主事）】
支援対象【研修会、研究主任、ICT担当、初任研メンターチーム、キャリアⅠ～Ⅲ対象者等】

A2 昨年度までのメニューに、「一人一台端末を利活用するための授業づくり等に関わる研修」や「キャリアステージの節目となる研修等への支援」が加わり、担当主事が地域の学校を教科の枠を超えて伴走型で支援します。

1 信州型ユニバーサルデザインに基づく支援

全校、教科会、研究主任等を対象にUDカードを用いながら、学校が目指す子ども像具現のための取組に対応した支援

3 キャリアステージの節目となる研修等への支援(例)

・「初任者への支援を充実させたい！」
☑「初任者を育てるメンターチーム」への運営面等に係る助言、初任者の授業づくりへの助言
※「新型コロナウイルス感染症の影響により教育実習特例を活用した初任者」への支援も行います。

NEW!

・「キャリアⅠ等の研修を充実させたい！」
☑授業づくりや県中連等に向けたレポートづくり、キャリアⅢに関わる校内研修会の企画運営等への相談・支援

2 一人一台端末を利活用するための授業づくり等に関わる支援(例)

NEW!

・「まずは体験してみたい！」
☑ビデオ会議システムを用いた遠隔授業やクラウド利用によるファイル共有等の体験を支援
・「どう活用していけばいいの？」
☑各校のICT環境に応じた一人一台端末の活用や校内のICT活用への支援

4 全国学力・学習状況調査に係る支援

早期採点の結果やS-P表をもとに実践を省察し、学校が目指す子ども像具現のための取組に対応した支援

5 臨任者等への授業づくり・学級づくりへの支援

臨任者等の願いを聞きながら、授業づくりや学級づくりについて共に考える支援



上記1～5以外に、「6 上記以外のメニュー」も用意していて、ゾーン担当指導主事が窓口で、各学校の支援をするよ。また、ゾーン訪問は年間を通じて要請を受け付けているよ。いずれも、電話やメール等でゾーン担当主事に相談してね。

※S-P訪問等で事務所から訪問をお願いする場合があります。



1で研究主任との懇談をお願いすると、研究主任が考えていることよさを学校全体に広げていくことができそうだな。

2でICT担当が中心となって授業づくりの支援をお願いすると、訪問終了後もICTの授業での活用を他教科や他学年に広げられそう。



学校訪問支援では、学校や先生方のニーズに合わせて相談しながら支援していきます。不明な点は、中信教育事務所 学校教育課までお気軽にご相談ください。

NEW! Zoomなどのビデオ会議システムを用いた支援も可能です。